

建築物名称	富士市新環境クリーンセンター建設工事(工場棟)
受付日	平成30年2月21日
建物所在地	富士市大淵676番地 外93筆
構造規模等	鉄骨鉄筋コンクリート造一部鉄筋コンクリート造・鉄骨造／地上5階地下2階 ／延床面積12,657.54平方メートル／新築
建物用途区分	事務所、工場
建築主	富士市長 小長井義正
設計者	川崎重工業株式会社 プラント・環境カンパニー級建築士事務所 松林寛樹
工事完了予定日	平成32年5月29日

# CASBEE®-建築(新築)

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	新環境クリーンセンター(工場棟)	階数	地上5階、地下2階
建設地	静岡県富士市大淵676番地 外93筆	構造	SRC造
用途地域	指定なし・法22条	平均居住人員	70 人
地域区分		年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	
竣工年	2020年5月 0.0	評価の実施日	2018年2月9日
敷地面積	74,382 m <sup>2</sup>	作成者	川崎重工業・松林
建築面積	6,909 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	19,531 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.3**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Q のスコア = 3.5

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.8

**LR 環境負荷低減性** LR のスコア = 3.1

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.9

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

### 3 設計上の配慮事項

総合	その他	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	新環境クリーンセンター(工場棟)	BEE	1.3	BEEランク	B+	★★★

2. 重点項目への取組み度						
重点項目	得点 <sup>※</sup> /満点		取組み度		評価	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.4	/5			ふつう	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	4.3	/5			よい	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.7	/5			ふつう	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	3.5	/5			ふつう	
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目					
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。		得点		3.4			
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)							
	■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ①トップライトによる採光	Q-1	2	2.1	2.2	① 外皮性能 ② 昼光利用設備 ③ 昼光制御	
		Q-1	3	3.1	3.1.3	④ 躯体材料の耐用年数	
		Q-2	2	2.2	2.2.1	⑤ 外壁仕上げ材の補修必要間隔	
					2.2.2	⑥ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	
					2.2.3	⑦ 空調換気ダクトの更新必要間隔	
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ①環境アセスの実施 ②高緑地率、高空地率の確保	Q-3	1			⑧ 空調・給排水配管の更新必要間隔 ⑨ 主要設備機器の更新必要間隔	
			3	3.2		⑩ 生物環境の保全と創出 ⑪ 敷地内温熱環境の向上	
	■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ①トップライトによる採光	LR-1	1			⑫ 建物外皮の熱負荷抑制 ⑬ 自然エネルギー利用 ⑭ 設備システムの高効率化	
			2			⑮ モニタリング	
			3	4.1		⑯ 運用管理体制	
			4	4.2			
	■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ①雨水利用設備の採用 ②プラント再利用水による床洗水利用	LR-2	1	1.1	⑩	⑰ 節水	
			2	1.2	1.2.1	⑱ 雨水利用システム導入の有無	
					1.2.2	⑲ 雑排水等利用システム導入の有無	
			2	2.1	2.1.1	⑲ 材料使用量の削減	
					2.1.2	⑲ 既存建築躯体等の継続使用	
					2.1.3	⑲ 躯体材料におけるリサイクル材の使用	
					2.1.4	⑲ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	
					2.1.5	⑲ 持続可能な森林から産出された木材	
					2.1.6	⑲ 部材の再利用可能性向上への取組み	
			3	3.1		⑲ 有害物質を含まない材料の使用	
				3.2	3.2.1	⑲ 消火剤	
					3.2.2	⑲ 断熱材	
					3.2.3	⑲ 冷媒	
	■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善)	LR-3	1			⑭ 地球温暖化への配慮	
			2	2.2		⑮ 温熱環境悪化の改善	
"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)		得点		4.3			
	■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)	Q-2	2	2.1	2.1.1	⑯ 耐震性	
					2.1.2	⑯ 免震・制振性能	
					2.4	2.4.1	⑰ 空調・換気設備
						2.4.2	⑰ 給排水・衛生設備
						2.4.3	⑰ 電気設備
						2.4.4	⑰ 機械・配管支持方法
					2.4.5	⑰ 通信・情報設備	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)		得点		3.7			
	■サービス性能対策 (⑯機能性・使いやすさ/⑰心理性・快適性/⑱空間のゆとり)	Q-2	1	1.1	1.1.3	⑯⑰ ユニバーサルデザイン計画	
			3	3.1	3.1.1	⑱ 階高のゆとり	
						3.1.2	⑱ 空間の形状・自由さ
	■室外環境(敷地内)対策 (⑲地域性・アメニティへの配慮)	Q-3	3	3.1		⑲ 地域性への配慮、快適性の向上	
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)		得点		3.5			
	■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) ①環境アセスの実施	Q-3	1			⑤ 生物環境の保全と創出	
			2			⑥ まちなみ景観への配慮	
			3	3.2		⑥ 敷地内温熱環境の向上	
		■敷地外環境対策 (⑮温熱環境悪化の改善)	LR-3	2	2.2		⑮ 温熱環境悪化の改善